

投資家が

「お金」よりも

大切にしていること

藤野英人

人生で

いちばん大切な

カネの話をしよう

投資家が「お金」よりも大切にしていること

藤野英人

星海社

30



SEIKAISHA
SHINSHO



私は、**お金**が大好きです。

福沢諭吉

1000

いまの私のセリフを聞いて

顔をしかめたあなたは、

DEUS SEJA LOUVADO

G001C5

1000



お金のことを

何も知らないのでしょうか。



THE NOTE

7 A

TE

SERIES
2006
A

人生も世の中も、最高にカラフルに輝き出すのです。



お金を知り、

お金を好きになれば、

はじめに

あなたがペットボトルに支払った「150円」の行方ゆくえ

みなさん、こんにちは。

ファンドマネージャーの藤野英人ひでとです。

ファンドマネージャーといっても、少しイメージしづらい職業かもしれません。みなさんから集めたお金（資金・資産＝ファンド）を運用する職業のことで、私はかれこれ20年以上、この仕事にたずさわっています。

要は、預かったお金をいろいろなところに投資し、そのリターンを得る仕事だと言っているでしょう。

今日は、「資産運用のプロ」として、そして、ひとりの投資家として、みなさんと一緒に「お金」のことに考えていきたいと思います。

さて、いきなりですが、みなさんはお金と聞いて、どのようなイメージを持っているでしょうか？

あなたにとって、お金とはいったいなんでしょう？

まあ、あまりに漠然^{ばくぜん}としていて、つかみどころのない質問かもしれませんね。
では、具体的に考えていくために、つぎの問題に答えてみてください。

問題

あなたはコンビニでペットボトルのお茶を買いました。

値段は150円。

そのお金は、コンビニのレジに収^{おさ}まったあと、いったいどこに行くのでしょうか？

簡単な問題かもしれませんが、2、3分間、じっくり考えてみてほしいと思います。

私は、明治大学で、起業や起業家精神について学ぶ「ベンチャーファイナンス論」の授業を受け持ったりもしているのですが、その大学生に同じ問題を出したところ、以下のような答えが返ってきました。

学生A 「サントリーとかアサヒとか、そのお茶をつくったメーカーの売上になる」

学生B 「メーカーだけじゃなくて、コンビニの売上にもなります」

学生C 「コンビニに商品をはこぶ運送業者の利益にもなるのでは？」

学生D 「それだったら、お茶農家の人の給料にもなると思います」

こういった感じに、いろいろな答えが返ってきたのですが、どれも正解です。じつはこの問題の正解はひとつではなく、もうほとんど無限にあるんですね。

思いつくかぎり、挙げてみましょう。

飲料メーカー、飲料メーカーの営業マン、コンビニエンス・ストア、レジの
アルバイト、運送業者、ドライバーさん、**お茶農家**、肥料業者、農具メーカー、
パッケージのデザイナー、イラストレーター、ソフトウエア会社、ペットボトルの
素材業者、素材業者にお金を貸している銀行、消費者金融、タンカー業者、海運業
者、印刷会社、印刷会社の会計担当、税理士、税務署役人、自動販売機メーカー、広
告代理店、**農協**、塗料メーカー、タレント事務所、俳優、鉛筆製造業者、グラ
ビアアイドル、カメラマン、コピーライター、コンピューターメーカー、半導体メー
カー、トラック会社、自動車メーカー、**ベアリングメーカー**、タイヤメーカー、
高速道路の建造業者、変圧器類製造業、高速料金所の係員、ガソリンスタンド、制
服メーカー、会計ソフトメーカー、会計士事務所、弁護士事務所、人材派遣業者、**証
券会社**、コンサルティング会社、市場調査会社、ウェブ制作会社、システムエンジ
ニア、プログラマー、水道業者、**ダム会社**、お客様センター、テレフォンオペレ
ーター、国家公務員、役所の受付、建築士、医師、光ファイバーケーブル製造業、看
護師、警察官、料理人、**金物屋さん**、飲食店経営者、学校の先生、予備校講師、マ
ーケター、不動産会社、編集者、炭坑で働く人、**免許教習所の教官**、プロスポー
ツ選手、刺繍師、駅長、演奏家、映画監督、お笑い芸人、活動弁士、官房長官、環境
計量士、校長、書店経営者、清掃会社、救急救命士、神父さん、珈琲ショップ、NG

○、ツアーコンダクター、ビルの管理人さん、マジシャン、無線通信士、薬剤師、ライトノベル作家、ピアニスト、ルートセールス配送員、梱包工、玩具製造工、養蚕作業員、守衛さん、百貨店、政治家、テレビマン、床屋さん、理容品メーカー、**白衛隊**、数学者、製紙業、ドラッグストア、携帯電話会社、スーツ販売業者、製糸メーカー、ボタンメーカー、デパート、ハンドバッグ製造業者、圧縮ガス・液化ガス製造業者、タクシー運転手、**気象予報士**、靴職人、左官、ガラスメーカー、介護福祉士、騎手、**砂糖製造業者**、ベビーシッター、通訳者、**バイオ技術者**、貿易スタッフ、コンシエルジュ、国際ボランティア、海上保安官、入国警備官、損得査定係事務員、アクチュアリー、通関士、建築用木製組立材料製造業者、ドアマン、酪農家、デバッガー、航空整備士、磨棒鋼製造業、CADオペレーター、たばこ製造業者、広報スタッフ、潤滑油製造業、経理・財務、金融ディーラー、バイヤー、カラーコーディネーター、**マーチャンダイザー**、配管工、空間デザイナー、溶接工、**旋盤工**、パタンナー、牧師、バリスタ、ルートセールスマン、織物整理業者、畳屋さん、レンタルビデオ店、クリーニング店、探偵、雀荘店員、**果樹作農家**、種苗養殖業者、新聞配達、内閣総理大臣、中古品小売業者、工業用水道業、ホテルマン、リゾート開発業、郵便局受託業者、**動物のお医者さん**、図書館司書、秘書、裁判官、主婦・主夫、**ごみ処理業者**、哲学者、起業家、NPO法人、投資家

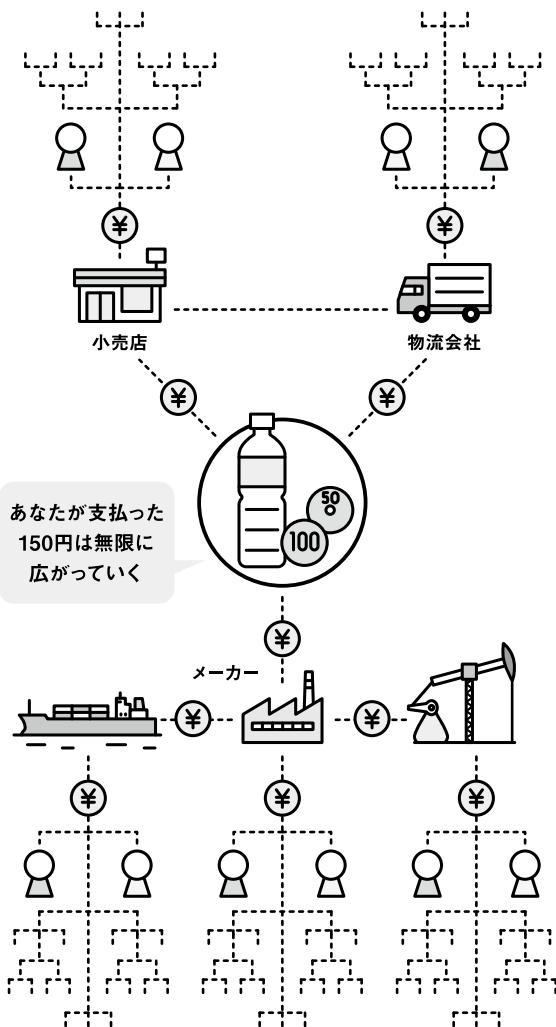
あなた自身は、どのような人、もしくは会社をイメージしたでしょうか？

まずは、学生の答えにもあったように、その商品を製造・販売しているメーカーの人たちですね。コンビニで購入したのであれば、そのお店の売上や、そこで働いている人の給料にも貢献しています。

つぎにイメージできるのは、商品を運送する流通の人たちや、ペットボトルを製造している人たちでしょう。ペットボトルを製造するためには、原材料である石油が必要ですから、石油会社の人たちの売上にもなっています。

そう考えると、アラブの産油国から日本に石油を運ぶタンカー会社の人たちの売上にもなっていますね。

また、パッケージをデザインした人やそれを印刷している人たちの姿も見えてきます。デザインのために必要となるパソコンやデザインソフトのメーカー、印刷機メーカー、製紙業者、木材を伐採する人たち。^{ばっさい}さらに、お茶の葉を生産している農家の人たちや、そのための肥料や農薬を販売している人たち、茶畑を耕す農具をつくっている人たち……。挙げ出すと、やはりキリがなさそうです。



あなたがコンビニのレジで特に意識することなく支払った「150円」というお金は、じつは最終的に、これだけの人たちに分配されているのです（もちろん、あなたがレジの人に渡した150円分の硬貨こうかがその人たちに直接渡するという意味ではなく、直接的・間接的に関わる人を挙げていくと、それこそ無限大に広がっていくという話です）。

どうでしょう。

“お金”に対するイメージが、少し変わるのではないのでしょうか？

お金について考える、ということ

私たちはふだん、当然のようにお金を稼かせいだり、貯ためたり、使ったりしていますが、「そもそもお金とは何か？」と考えることは、ほとんどありません。

最近では、小学校や中学校で金融教育を行うべきだ、という意見も多いですが（私はそれには大反対ですが、その理由はのちほどじっくり述べます）、ふつうは先生からも親からも会社の先輩・上司からも、「お金とは何か」について教えてもらうことはないでしょう。

お金は、私たちの人生に必要な不可欠なものであるにもかかわらず、ある意味で、**いちばん縁遠い存在**でもあるのです。
えんどお

私は、投資家という職業柄、お金というものを、そのいちばん身近なところで見えてきました。

「お金とは何か？」ということがわからないと、まったく仕事になりません。

それは、漁師が、魚の生態を知らずに漁りように出るようなものです。偶然うまくいくことはあっても、長期的に成果を上げ続けることはできないでしょう。

だから私はお金について、ずっと考えてきました。とことん考えてきました。

その結果、見えてきたことがあります。わかってきた「大切なこと」があります。

それを、今日はみなさんにお伝えしていきたいと思っています。

私はここまでで「お金、お金」と連呼れんこしていますが、お金という生き物があるわけはありません。あたりまえですよね。

そして、紙幣や硬貨がお金なのでもありません。紙幣は紙切れですし、硬貨はただの亜鉛や銅やニッケルです。150円でペットボトルのお茶を買うことはできても、100円玉と50円玉でのどの渴きを潤すことはできません。

お金とは、あくまで無色透明な概念にすぎない。ただの数字なのです。

つまり何が言いたいかというと、色がついていないからこそ、お金には私たちの考えや態度が100%反映される、ということです。

- ・ お金を使って、何をするか？
- ・ お金を通して、何を考えるか？

現代社会で生きている私たちは、生まれてから死ぬまでの間ずっと、お金の流れに身を投じて生きていると言っても過言ではないでしょう。お金を考えることは、まさに人生を考えることに他ならないわけです。

つまり、お金について語ることは、どう生きるべきかという「人生の哲学」を語るこ

とでもあります。

私たちは、人生のあり方をお金に投影しているのです。

本屋さんに行けば、「転職で年収1000万円！」や「33歳から始める節約貯金生活」、「FX投資で資産を築く^{きず}55の方法」といった本がごまんと並べられています。

みなさん、お金を稼ぐ、お金を貯める、お金を増やす、ということに対しては、並々^{なみなみ}ならぬ興味があるようです。

しかし、稼いだり・貯めたり・増やしたりしたお金を「どう使うか」ということに關しては、あまり語られません。そういった本も、ほとんど見かけません。

それは、とても不思議なことではありませんか？

お金はあくまで概念であり、誰かと何かを交換するための手段であるはずなのに、自分がお金を所有すること自体が目的になってしまっているかのような印象を受けます。

150円のペットボトルのことを考えてみてください。

ペットボトルの背後には、何百人、何千人、何万人もの人たちが見えます。私たち

“つながる”社会が、そして世界が見えてきます。

私たちの使うお金は、**単なる交換以上の「大きな意味」**を持っているのです。

だからこそ、お金を使って何をするか、お金を通して何を考えるか、ということとはとても重要です。それは、誰かのためになったり、誰かを応援することにつながったり、ひいては、自分の幸福感とも密接に関係してくるからです。

本書では、みなさんがどこかで避^さけていたかもしれない「お金」について、真剣に語っています。

私はこれまで、プロの投資家として、株式の分析方法や起業のあり方などについて語ることは多々ありましたが、今回のように「お金」そのものについて真正面から向き合い、語る機会は初めてです。

しかし、大好きなお金の魅力を語ることができるので、ワクワクしています。

私自身が考える「お金」の本質、そして、そこから見えてくる「経済」「仕事」「会社」「投資」「世の中」のあるべき姿について、一緒に考えていきましょう！

目次

はじめに 7

あなたがペットボトルに支払った「150円」の行方^{ゆくえ} 7
お金について考える、ということ 14

第1章 日本人は、お金が大好きで、ハゲタカで、不真面目

25

8割の学生が「お金儲け^{もう}＝悪」 26

日本人は世界一ケチな民族 31

お金について「何も考えていない」 37

日本人は不真面目なお金教の信者 43

第2章

日本をダメにする「清貧の思想」

49

バットマンはなぜ「かつこいい」のか？ 51

日本のヒーローは……公務員 54

日本人が美德とする「清貧^{せいひん}の思想」 56

じつは、清豊でなければ成功できない 61

新しいビジネスを始めるのは、立派なことか？ 66

「なぜ国^{おこ}がやらない！」と怒り出すのが日本人 70

「アリとキリギリス」のアリにそっくり 73

人は、ただ生きているだけで価値がある

経済って、よくわからない…… 78

残業250時間の「ブラック企業」 84

誰がブラック企業を生み出すのか？ 87

いま、ブラックスパイラル^がが起きている 91

経済は「互恵^{ごけい}関係」 94

経済の語源は「共同体のあり方」だった！ 96

「ありがとう」はチップ 100

ひとりひとりが日本経済 104

一カ月間の出費をすべて記録すると、何が変わるか？

自分のお金をステキなものに使う 110

「孤独」を埋^うめる消費 115

世の中に「虚業」なんてひとつもない 121

日本人は仕事も会社も同僚も、あまり好きではない 123

「会社」とは何か？ 126

なぜ、社長に対して学生がプレゼンを行うのか？ 130

NPOや社会起業家に対する誤解 133

「ぼくはフォースの暗黒面に落ちていた」 138

会社とは、きわめて人間的な存在である 142

会社の価値は、何で決まっているのか 149

株主総会でわかる、会社の真面目さ・不真面目さ 152

私がインド人経営者にぶつたまげた理由 154

あなたの会社の社は形骸化^{しゃげ}していないか？ 158

従業員の頑張りはお客さんには無関係 162

第5章

あなたは、自分の人生をかけて社会に投資している、

ひとりの「投資家」だ

191

投資は、「お金」ではなく「エネルギー」のやり取り

192

エネルギーの8要素

195

駅のトイレで出会った、偉大な投資家

198

なぜ「カネの話は人生でいちばん大切」なのか？

201

日本の投資信託がトピックス型だらけの衝撃理由

166

「金の卵」の失望

169

ソニー凋落の兆しはプレゼンに表れていた

173

真面目な会社かどうかを見分ける方法

178

「虚業」と言い切る人は、自らの無知をさらけだしている

184

ブレてもいい。揺れ動いてもいい。一歩ずつ理想に近づいていこう 206

私が「成長する会社」に投資する理由 208

本当の安定とは「成長し、変化すること」 210

あなたはなぜ「行動」できないのか？ 214

最後の最後は「エイヤ」 217

投資の果実Ⅱ 「資産形成」×「社会形成」×「こころの形成」 223

ネガティブ情報の洪水に溺れそう^{おぼ}な、日本の若者たち 228

誰が日本経済を「失わせた」のか？ 230

日本経済の足を引っ張っている「日本経団連^{けいだんれん}」 236

モノクロのレンズを捨てよう。世界はもともとカラフルなところなのだから

第1章

日本人は、
お金が大好きで、
ハゲタカで、
不真面目

この第1章で、私はあえて、お金と日本人に関するショッキングな話をします。

でも、間違いのない「事実」ですので、目をそらさずに直視していただきたいと思います。

お金についてしっかり考えていくためには、まず、私たちが日頃、お金というものをどう捉とらえているのか、よく知っておく必要があるでしょう。そのうえで、どのような考え方にシフトしていくべきか、みなさんと一緒に考えていきたいのです。

8割の学生が「お金儲け＝悪」

よく言われることですが、日本人はお金に対してあまり良いイメージを持っていません。自分の年収や貯蓄額を公言する人は少ないですし、「お金について話すこと自体、憚はばかられる」という人も多いのではないのでしょうか。

お金の話になるとなぜか小声になる人も、たまに見かけます。

そして、「投資」や「お金儲け」ともなると、「汚い・不潔ふけつ」「怖い」「腹黒い・ブラック・暗い」「ズルい・他人を蹴落けおとす」「悪い」「賭け事・ギャンブル」「がめつい」……

といった、ネガティブなイメージを持っている人がほとんどです。言葉には出さなくても、心の底ではそう思っています。

明治大学の授業では商学部が大半を占めていますが、最初の授業でアンケートをとってみると、**8割の学生が「投資」「ダーティー」「お金儲け」「悪」**だと思っている、という残念な結果が出ました。

商学部の学生でそのような結果なのですから、文学部や法学部の学生になると、もっと悪いイメージを持っている率が高くなるに違いありません。

「起業したい!」「ベンチャー企業に入りたい!」と宣言する学生も、「金儲けしたい!」とはけっして口にせず、「社会貢献できて、社員がつつましく暮らせれば、それでいい!」などと言います。みんな、「お金を稼ぐ」ということに対して、あまり良いイメージは持っていないのです。

また、私がCIO（最高運用責任者）を務める会社（レオス・キャピタルワークス）では、証券会社や銀行を通じないで直接販売する「ひふみ**とうしん**投信」という金融商品（投資信託）を

扱っていますが、お客さんの反応から、投資についての悪いイメージを直に感じるこ
とが多いのが現実です。

特に、地方に行くほど、お金の話をするだけで顔をしかめられたり、うしろ指をささ
れたりします。投資の話をすると、年輩の方から「汗水たらして真面目に働かないとダ
メでしょ」と、お叱りを受けることすらあります。

総じて、老若男女を問わず、お金に対して良いイメージは持っていないのです。

しかし、良いイメージを持っていないからといって、彼ら・彼女らはお金が嫌いなわ
けではありません。

逆に、日本人はお金が大好きな民族です。

お金に対する汚いイメージは、お金が大好きであることの裏返しとも言えます。小声
でお金の話をする人ほど、じつはお金が好きで好きでたまらないのです。

なぜ、そんなことが断言できるのか？　まずは、つぎのページの図を見てください。

日米英独仏における
個人金融資産の比較

個人金融資産							
		金融資産内訳					
		 現金・預金	 保険・年金	 有価証券	 株式	 その他	合計
 日本	金額 (兆円)	792	399	92	87	58	1427
	比率 (%)	55.5	27.9	6.4	6.1	4.1	100.0
 アメリカ	金額	567	1049	782	1170	147	3175
	比率	15.3	28.2	21.0	31.5	3.9	100.0
 イギリス	金額	155	246	22	39	18	480
	比率	32.2	51.2	4.6	8.1	3.7	100.0
 ドイツ	金額	221	189	103	44	5	560
	比率	39.4	33.8	18.3	7.8	0.9	100.0
 フランス	金額	140	175	46	63	23	446
	比率	31.3	39.1	10.3	14.2	5.1	100.0

※2008年末／「投資十八番」より引用
<http://stockkabusiki.blog90.fc2.com/blog-entry-883.html>

これは、日本とアメリカ、イギリス、ドイツ、フランスにおける個人金融資産の比率を表したものです。

これを見ると、日本の現金・預金の比率が突出して高いことがわかります。

日本が55・5%と、半分以上を占めているのに対して、アメリカは15・3%、イギリスは32・2%、ドイツは39・4%、フランスは31・3%になっています。

何が言いたいかというと、日本は「現金と預金」の比率が高く、他の国は有価証券ゆうかや株式といった「投資」の比率が高いということです。

一見すると、イギリスの有価証券や株式の比率は日本と変わらないか、日本よりも低いように見えますが、保険・年金のなかに投資性の強いものが多く含まれています。海外の保険は、いわゆる日本の生命保険のような貯蓄的な商品というよりも、投資的な商品に近いのです。

ですから、数字のうえではイギリスの有価証券と株式の比率が低くなっていますが、実際に社会に投資されている金融資産の総比率では、日本よりも高いのです。

それは、ドイツやフランスにおいても同じことです。

この統計からわかることは、ずばり、日本人はお金が好きだということです。現金と預金が好き、と言ったほうがより正確かもしれません。

お金が好きといつても、お金を使うのが好きというわけではありません。何かを消費するわけでも、株式などに投資するわけでもなく、現金や預金として、お金を自分の懐ふところに貯め込むのが好きなのですから、「**お金そのもの**」が大好きなのです。

日本の個人金融資産は総額1400兆円だと言われていますが、そのうちの半分強、800兆円もの莫大ばくだいなお金かねが、現金と預金なんです。

貯蓄型の生命保険も含めると、それ以上のお金かねが、まったく使用されずに眠っていることになります。

日本人は世界一ケチな民族

日本人はお金に対してケチでもあります。

その証拠に、つぎの問題の答えはいくらになるか、ちょっと考えてみてください。

問題

アメリカでは、年間で、成人1人あたり約13万円のお金を寄附きふしています。それに対して日本では、成人1人あたり、いくらのお金を寄附しているでしょうか？

講演でこの質問を会場に投げかけると、みなさんは私の意図を感じ取り、思っているよりも低く見積もって、1万円くらいだとお答えになりますが、大間違いです。

答えは、その4分の1の2500円。たったの2500円です！

アメリカの、じつに52分の1なんです。

つぎのページの図を見てください。これは、日本とアメリカ、イギリスにおける年間の寄附額を比較したものです。この図を見れば、日本人はアメリカ人やイギリス人に比

日米英における
年間寄附額の比較

	 寄附総額	 成人1人あたりの金額	 寄附主体の個人比率
 日本	7000億円	2500円	36%
 アメリカ	34兆円	13万円	76%
 イギリス	3兆円	4万円	60%

※2009.6.29／
JST理科教育支援センター調べ

べて寄附をしない民族であることが、端的にわかります。

この図には、アメリカとイギリスのデータしか載っていませんが、日本は先進国のなかでもっとも寄附をしない国です。ほとんどの先進国では、家計の2〜3%くらいの金額を寄附します。アメリカは3%です。

ところが日本人は、家計のたった0.08%しか寄附しないのです。

寄附主体における個人の比率を見ると、日本は36%です。残りの64%は企業や団体になります。一方、イギリスでは個人の比率が60%、アメリカでは76%も占め、いかに一般の人々が寄附を行っているかがわかります。

「アメリカでは、ビル・ゲイツみたいなお金持ちが莫大な寄附をして、平均額を底上げしている」と思われるかもしれませんが、それはよくある誤解です。

「ニューヨーク・タイムズ」の記事（2010年8月20日）によると、年収2万5000ドル（日本円にすると約230万円／2013年1月末現在）以下の人が年収の4.2%を寄附しているのに対して、年収7万5000ドル（約690万円）以上の人は年収の2.7%の寄附しかしていない、といっています。

けっして、お金持ちだけが寄附をしているわけではなく、お金にゆとりがない人でも寄附を行う文化があるんですね（低所得者が寄附をすれば税制的に有利というわけではないにもかかわらず、です）。

逆に、日本は寄附を行わない文化です。

それを文化の違いだと単純に考えることもできますが、日本人はお金にがめついという事実は間違いないでしょう。

もし、個人金融資産の1%を東日本大震災の義援金^{ぎえんきん}として寄附していたら、約14兆円ものお金が集まったはずですよ。

でも、実際に集まった義援金は、数千億円にとどまりました。

3・11が起きた2011年の成人1人あたりの寄附額は6551円と倍増しましたが、よくよく考えてみると、**あれほどの大災害・悲劇に見舞われたのに、例年の2倍しか寄附しないのが、日本人の本性^{ほんしやう}だと言えます。**

2倍しか寄附しないというのは、阪神大震災のときもまったく同じでした。

あえて断言しますが、日本人ほどケチな民族はいません。

困っている人のために寄附もしないし、社会にお金を回すための投資もしない。じゃあ、他の先進国の人たちに比べて、公共のためのお金である税金を多く払っているのか
といえ、そんなこともない。日本の税率は、むしろ低いくらいです。

じゃあ、いったい何をしているのか？

日本人は自分のこと、すなわち、自分のお金のことしか考えていないのです。

自分のお金を現金や預金として守ることしか考えていないのです。

大友克洋かつひろの漫画『アキラ』では、大量の缶詰を大切に抱えながらひとつも開けず

に死んでいく婆ばあのことが皮肉的に書かれていますが、その姿にそっくりです。

現金・預金を55%も抱えて、とにかくお金を1円も減らしたくない。もう絶対に減らしたくない。世の中の人に渡すなんて大損だと思っている。

これを守銭奴しゆせんどと言わず、なんと云えばいいのでしょうか？

お金について「何も考えていない」

少し前の話になりますが、2007年に、スティール・パートナーズ・ジャパンというアメリカ系の投資ファンドが、老舗しにせソース会社であるブルドックソース株式会社の株を買い占めたことがありました。具体的には、TOBという株式公開買い付けによって、ブルドックソースの全株取得に乗り出したのです。

それに対して、ブルドックソース側は、スティール・パートナーズの持ち株比率が下がるような対応策を講じことうました。この対立は裁判にまで発展し、結局、ブルドックソース側が勝って、買収回避に成功。

そのとき、日本人はスティール・パートナーズの経営者に対して、ものすごく怒りおこました。メディアもそろって、スティール・パートナーズの経営者を批判しました。

「あいつらは金の亡者もうじゃだ！」

「やつらは短期的に儲けることしか考えていない！」
といった感じに。

それだけを聞くと、まっとうな意見のように思えます。ブルドックソースの社員のこ

とを考えているようには思えないし、他の株主の利益を無視しているようにも思えるからです。

それよりも、日本からお金だけを吸い取っていくような感覚が強かったからかもしれません。日本人の誰もが、アメリカ系投資ファンドのことを「ハゲタカだ！」と言つて、猛烈に批難したのです。

では、アメリカ人は瀬死ひんしの者にたかるハゲタカで、日本人は清くて真面目な小鳩こばとなのでしょうか？

私は、けつしてそうは思いません。

むしろ、**日本人こそがハゲタカ**だと、常日頃感つねひごろじています。

数年前、日本人はブラジルの株をものすごい勢いで購入しました。ちょっとしたブームだったんですね。

ところが逆にいま、ものすごい勢いで引き上げています。

このような状況で、私はつぎのような質問をよく受けます。

「ブラジルはいまちょっとダメだから、中国でもいきましようか？ 最近は新興国が伸びているので、インドに乗り換えたほうがいいでしょうか？ それとも他に良い国があるなら、ぜひ教えてください」

さて、このような考え方とさきほどのステイール・パートナーズとの間には、どのような違いがあるのでしょうか？

私には同じように思えてなりません。

「あつちがダメだから、つぎはこつちだ」「こつちのほうが利益が出そうだ」などと言って乗り換えるのはいいですが、ちょっと考えてみてください。私たちは、テレビや新聞で散々「ハゲタカだ！」と言ってステイール・パートナーズを非難したけれど、私たちこそがハゲタカではないのでしょうか？

ハゲタカが良いか悪いかは別にして、私たちもハゲタカだという認識を持つ必要があります。もし「私はハゲタカじゃない」と言うのであれば、ブラジルの株を長期間、持

つべきです。

最低でも5年、10年は持つてほしいと思います。

もし売るのであれば、「私はハゲタカだ」と認めてください。

そうでないとおかしいですね。日本人にされたことに対しては頭にくるけれど、ブラジル人や中国人、インド人ならいいという論理は成り立ちません。

他の国の話になれば、株主の価値や従業員のことを考えなくてもいいのでしょうか？それは、人種差別ではないでしょうか？

私が講演やセミナーでそのような話をする、会場はシーンとなります。何も私はみなさんを批判したいわけではありません。みなさんが悪いわけでもありません。

なぜ、そのような考え方になってしまうのかを問いたいです。

その理由は、「何も考えていない」というひと言に尽きます。

たくさんお金を持っても、下を向いて自分の懐を見つめているだけ。視線を上げて、そこからつながる流れや、その行きつく世界のことなど、まったく見ていない。だ

から、自分がお金を通じて社会に参加しているという意識、それに付随して責任が発生するという意識が乏しいのです。

つまり、自分のお金のことしか考えていないのでしよう。

私が「お金とは何か？」ということについて考えてほしいと訴える理由は、そこにあります。

事実、ブラジル株ブームによって、8兆円近いお金がブラジルに投資されましたが、元本割れすることと解約が相次いだことで、ブラジルの通貨であるレアルが暴落してしまいました（口絵の2ページ目の背景は100ブラジルレアルです）。

それは結果的に、円高の大きな要因にもなっています。

結局、日本人のブラジルへの投資は、ブラジル人のなんの役にも立たなかったばかりか、ブラジルの通貨や経済を混乱させてしまったんですね。

自分たちがその元凶のひとりであるということは、誰も認識していないし、指摘もしない。

だから私は、あえてみなさんのことをハゲタカだと言うようにしているのです。

海外では、投資信託を20年から30年くらいのスパンで持つのが一般的です（最近、投資信託を始めた人が多いので、平均すると10年くらいに下がりますが）。

一方、日本では、投資信託の平均保有年数は**たったの2・4年**（2011年・投資信託協会調べ）。短期間で引き上げるのは、ブラジル株にかぎった話ではないのです。

日本人は3年も保有していません。新入社員には「石の上にも3年だ」とか言いながら、自分自身は3年も耐^たえることができないんですね。

世界でもっとも「（投資の）回転率が高い」と言われています。

つまり、自分のお金^{にお}が心配で心配で仕方ない。何か危険な匂^{にお}いがただよえば、すぐに売ってしまいます。1円でもお金を減らしたくない。

それが、日本人の本音だと言えます。

投資信託の平均保有年数を見るだけでも、日本人のお金に対する考え方を垣間^{かいま}見ることが出来ます。

お金が大好きだからこそ、自分のお金を守ることに執着^{しゅうちやく}するのでしょう。

日本人は不真面目なお金教の信者

一般的なイメージとして、日本人は真面目だと思われていますが、私の考えは違います。日本人は真面目ということの意味を履き違えているように思えてならないのです。

広辞苑で「真面目」を調べてみると、

「真剣な態度・顔つき。本気。まごころがこもっていること。誠実なこと」

と書かれています。大辞林でも同じように調べてみると、

「本気であること。真剣であること。誠意のこもっていること。誠実であること」

と、同じようなことが書かれています。

つまり、言われたことを言われた通りにやることや、ルール・規則を守ったり、常識をわきまえたりすることは、真面目の本来の意味ではないのです。

先生や親や上司に対して反対意見を言うことは、ひょっとしたら真面目なのかもしれません。それは、真剣な様であるかもしれないし、誠実であるかもしれないからです。

非常識な行動だとしても、たとえばそれが会社のビジョンに反していて、なおかつ、お客さんのためにならないと思って行われるのであれば、それは真の意味で「真面目」

な行為なのです。

私は、真面目という言葉が真面目に使われていないように思います。

真面目であることが、単に就業規則を守ったり、時間通りに来ることだったり、会社でいえばコンプライアンスを表面上遵守することだったり、どちらかと言うと形式論になっていくように感じるのです。

さらに真面目の語源まで調べてみると、

「柳は緑、花は紅、真面目」
やなぎ くれなゐ しんめんもく

という、中国宋代の詩人、蘇東坡の詩にいきつきます。

意識すると、「柳には柳の色、花には花の色があり、それぞれがそれぞれの個性や役割を発揮している」という意味です。

真面目は「しんめんもく」と読み、ありのままにしていること、本質的であることを表しているんですね。

真面目とは、本気であり、真剣であり、誠実であること。

そして、「**本質とは何か**」ということを、しっかり考えること。

そのように捉えたと、日本人のお金に対する態度や行動は、不真面目であると言
いようがないでしょう。

何も考えていないわけですし、考えているとしても自分のことしか考えていないわけ
ですから。それはけっして誠実ではないし、本質的なことでもありません。

自分でお金を貯め込んでいるということは、人にお金を出したくないということ。そ
れは、**人を信じていない**ことでもあります。

日本人ほど、他人を信じていない民族はないということに他なりません。他人にお金
を預けたら、もう自分のところに返ってこないと思っているわけですね。

最近では会社も信じていませんし、政府も信じていません。ましてやNPOやNGO
といった非営利組織や非政府組織も信じていない。

特定の宗教を信じている人も少ないでしょう。

では、日本人はいつたい何を信じているのでしょうか？

結局、お金しかありません。

日本人はお金を信じているのだと、私は思います。

だから、お金を現金や預金として貯め込んでいるのでしょう。他に信じられるものがないため、仕方なくお金を信じているとも言えます。

人を信じられず、お金しか信じられない。それが日本人の本当の姿なのです。ちょっと寂しいさみ気がしますし、日本人として恥はずかしい気持ちにもなります。

「そんなことはない！」とお怒りになる方もいるかもしれませんが、残念ながらそれが現実です。「お金しか信じられない」という思想は、「現金・預金が好きで、寄附はない」という実際の行動の結果に、端的に表れているのです。

あなたには、「**お金**」よりも信じられるものがありますか？
あなたには、「**お金**」よりも大切なものがありますか？

その結論にいたるためにも、お金について「真面目に」考えていかなければいけないのです。